

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 金武あけぼの会		
事業所名	グループホーム ロースガーデン		
所在地	沖縄県沖縄市諸見里3-41-30		
自己評価作成日	平成 27年 1月 31日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私達ローズガーデンは、併設施設として、特別養護老人ホーム 森城(ムグスク)があり、共に地域に根差したホーム作りを目指しています。</li> <li>・地域ボランティアが毎月訪問し踊りを披露してくれたり、沖縄市役所高齢福祉課から毎月介護相談員の訪問を受け入れ利用者の良い話し相手になるなど、利用者を飽きさせない工夫も行っていきます。</li> <li>・利用者の意思を最大限尊重した介護の実践に取り組んでいます。</li> <li>・身体拘束ゼロを掲げ実践しています。</li> <li>・訪問歯科診療を毎週行っており、利用者の口腔内環境に気を配り健康面のサポートも行っています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は事業所開所時に法人の理念を職員間で共有して日頃のケアに取り組んでいたが、開所2年目の節目として、平成26年当事業所の理念を職員と一緒に独自の理念を作成し、職員が毎朝唱和する事で再認識することができている。また、排泄に関して法人全体で自立支援に力を入れており、当事業所もオムツ使用ゼロに向けて水分・排泄チェック表の活用、運動を取り入れることで自然排便を目指し、定期的なトイレ誘導を行い「水分・排便・運動・栄養」に取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成27年3月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成27年3月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼にて毎日、理念の唱和を行い日々共有を図っている。	今まで法人の理念を唱和していたが、今年度管理者と職員と一緒に取り組み独自の理念を作成している。理念の「利用者の思いを最大限尊重」は入居者の意思を尊重する事、「利用者と共に歩む」は施設ではなく一つの家族として捉える事等とし、毎朝唱和して職員間で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・隣接するサービスとの交流や、地域の行事等への参加、市民検診等を活用し外出しやすい環境整備を行っている。	自治会に加入して年間行事等を広報誌等で把握し、清掃活動等の地域活動に職員が参加している。また、自治会の老人会は施設外の草刈りでの協力、婦人会は毎月踊りの披露で訪問を受けている。地域との交流では入居者と職員で散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わす程度に留まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関する資料やパンフレット等を置いてご家族、来訪者へ提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回会議を開き、サービス状況を報告し、意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は偶数月で開催で入居者や家族、地域代表者や行政等が参加している。会議では事業所の活動や外部評価結果、防災訓練の取組みとヒヤリハットの報告、委員間の意見や提案等を議事録で確認している。民生委員から「車イスの操作方法を教えてくれたらボランティアに繋がる」との提案を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・毎月、沖縄市役所高齢福祉課より介護相談員の訪問を行い、利用者との良い話し相手になっている。又、定期的に講評を頂きサービス向上に繋げている。	運営推進会議に行政関係者が参加した際や、行政窓口を訪問時にも入居者に関する情報交換等をしている。生保担当者への入居者訪問も定期的に受けている。また、毎月訪問を受けている介護相談員に今年度から年2回報告書を提出してもらい、報告書は事業所内にも掲示して周知を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止、ゼロは施設目標の核であり、開所よりそれらの行為はない。	事業所の方針「身体拘束をしないケア」を運営規定や重要事項説明書で明示し、家族等には入所時等に説明している。全体会議等の後に身体拘束廃止について勉強会をもち、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。	

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・利用者への声掛け一つにも職員間で周知しケアの統一を図っている。又、ご家族に対しても認知症への正しい理解を求めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修等を通じて学ぶ機会を得、実践できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご本人やご家族に対し契約に関する説明をしっかりと行い、理解、了解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族とのコミュニケーションを大切に、常に遠慮なく意見が言える雰囲気作りを行っている。 ・ご意見箱を設置している。	日頃より入居者の声、思いを大事にして反映できるようにしている。家族からは面会時が多く、「お洒落が好きなので整容に気をかけてほしい」の声があり対応している。また、法人で家族会を定期的に開催して、行事や全体清掃などの呼びかけ、情報提供をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の全体会議や定例会議では代表者や管理者等も交えて行っており、日頃から自由に意見交換がなされる雰囲気作りを努めている。又、ミーティング等でも活発に意見交換が行われ実際の業務に反映されている。	管理者は日常的に職員の要望や意見を聞くよう心がけているが、職員から業務等への要望は記録等が整備されてないので確認ができず、職員の意見等も把握には至っていない。外出支援目的の車両購入に付いては管理者が購入ができるように法人と交渉を重ねている。	事業所の運営に職員の意見を反映させる為にも、定期的なミーティングの開催や、職員間の意見等を記録に残すよう取組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい環境の整備や条件等を整える為の話し合いを代表者と管理者で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加している。		

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡会主催の研修や集まりなどへ参加し、他施設職員との情報交換等を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の思いや不安、意向等を確認し、常に傾聴する姿勢を持つことに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が置かれている状況を把握、確認しながら希望や要望等を受け止め、解決案を提示し、安心、納得を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人やご家族にとっての最優先解決課題を見極めながら、他のサービスも視野に入れ提案、対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自己決定が出来るような支援を心掛けると共に、利用者と寄り添う生活環境整備に努めている。又、テレビ鑑賞やコーヒータイム等でリラックスしながら過ごす時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人、ご家族との絆を断ち切らない様に積極的に面会、外出等の提案を行っている。又、家族間での意見、相談にも取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・隣接するサービスとの協力を下に地域住民との交流にも働きかけている。馴染みの場所(スーパーや美容室)や人との関係が途絶え無いようにご家族と共に支援している。	職員は入居者の職歴等の把握をしている。定期的な訪問理美容を利用したり、馴染みの場所への訪問を計画して出掛ける入居者もいる。また、友人・知人の訪問を歓迎し、馴染みの関係が途切れないようにしている。	

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の交流の機会も多く、共にレクリエーションや手工芸等での活動の場も設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約前、契約終了後も、本人、ご家族等の状況を確認し、他の社会資源へと繋げている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で本人の過ごし方や、習慣等を確認し把握している。状況に応じてはご家族への協力も頂きながら進めている。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意志疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを本人、ご家族から伺い出来るだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常から利用者の心身の状況、認知度についても把握し、出来る事を見つけて少しでも取り組みに参加して頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に、本人やご家族、医療と介護スタッフと話し合い、状況に即した介護計画書を作成している。	担当者会議は状態変化時や更新時に行い、家族・ケアマネが参加し、ニーズに沿った介護計画書を作成している。入居者のニーズは家族やケアマネによる聞き取りで行っている。個別ケアについては職員から聞き取りして情報を収集して共有している。3カ月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の状況を記載し、スタッフ全員が情報を共有、把握出来ている。又、日々の状態や家族とのやり取りを支援経過に記載している。		

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族、その時の状況に応じ、共通のサービス以外にも臨機応変に柔軟なサービスの支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・馴染みの方であったり、通いなれた病院、お店等お一人おひとりの地域資源の活用に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・法人併設の特養に嘱託医がおり、状況に応じて状態を報告したり、かかりつけ医の病院や専門科への受診を促したり連携を図っている。	入居者や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診や専門医の受診は家族対応を基本としている。受診時は必要に応じて家族に口頭で行うか、情報を提供し医師からの返書ももらっている。また、併設する法人施設の嘱託医や看護師と連携を図り、健康管理等の相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ローズガーデンには看護師配置はないが、定期的に法人併設の特養の看護師が見守りに来てもらっている中、助言等もらいながら適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・介護支援専門員が入院先の地域連携職員との情報交換を密に行いながら、早期退院、受け入れ時期など調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に、ご家族へ終末期に対する意向を確認し、事業所内で出来る事を十分説明し了承を得ている。又、終末期への移行の際には併設の特養への転床を視野に、ご家族と両施設の関係職員との話し合いを持っている。	事業所の方針は契約時に入居者本人や家族に重度化や終末期の対応を行わないことを説明し、了解を得ている。今後も終末の受け入れは行わない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設の特養の看護師が中心になり、業務終了後に勉強会等を必要時に行っている。又、AEDを施設に一台設置し、取扱い方法について定期的に沖縄市消防職員を招き講習を置けている。		

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・夜間想定避難訓練を始め、年に2回の訓練を実施している。徐々に職員に周知出来てきている。	同一建物内併設施設合同で消防署立ち会いの訓練と自主訓練を行っている。職員・入居者と年に2回避難訓練を行い、そのうちの1回は夜間を想定した避難訓練を行っている。近隣の住民にも協力を呼び掛けているが参加はない。防災設備は完備され、3日分の非常食などの備蓄がある。	消防署の講評に沿い、設備機能や職員の応援・連携体制に関して職員に勉強会を重ねて周知徹底し、地域住民を含めた訓練の実施が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉掛けには職員間でも十分注意を払い、アドバイスをしながら対応している。 ・利用者の意思や思いを損なわないような声掛け対応を心掛けている。	理念の「利用者の思いの最大限の尊重」を実践し支援が必要な時は、事前に本人に必ず確認し同意を得ている。日課なども無理強いせずに入居者の自主性を尊重している。入居者への対応や言葉使いには細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に声掛けを行う中で利用者の意向を確認し、自己決定が出来るような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自室で休みたい時やおやつを食べたくない時、外に出掛けたくない時など、利用者の訴えを聴き、その日の状態を考慮しながら声掛け見守りを行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・月に一度、出張散髪が訪問し、身だしなみの支援を行っている。又、定期的に爪切りや顔ぞり等を行い、おしゃれには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の食事形態を確認し、栄養士による栄養バランスにも配慮した食事の提供を行っている。 ・月に一度おやつ会を実施、利用者と共に簡単な調理を行っている。	食事は同じ建物内厨房から法人の栄養士の献立をもとに配食され、入居者と一緒に職員も食事を摂っている。また、入居者の要望があれば小鉢でも提供している。月に一度のおやつ会では入居者は下ごしらえや、入居者自身がおやつ調理もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を記載し、状況把握に努めている。水分摂取量一日1200～1500mlを目標に実現出来ている。		

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや声掛け介助によりケアが行われている。又、本人、ご家族の意向や義歯の状態により毎週木曜日に訪問歯科医師による往診体制も整っておりその都度、ご家族立会いの下治療が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・法人全体でオムツゼロを目標に掲げて行っており、全利用者が日中、トイレでの排泄を行っている。	「水分」「排便」「栄養」「運動」を基本にトイレでの排泄支援を職員間で共有し、「オムツゼロ」を掲げて日中トイレでの排泄に取り組んでいる。現在は日中オムツゼロ、夜間帯は1人の入居者のみオムツを使用している。同性介助を要望する入居者には日中は同性で対応し、夜間は職員体制を説明し了解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量を1日1200～1500mlに設定し様子を見たり、食物繊維補助食品などを活用して食事や飲み物に混ぜてあげたり、日中の活動量を増やしたり、日々、取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ある程度の設定はあるが、必ず本人の意向を確認し入浴を行っている。	入浴は週3回を基本としているが、入浴時間等も含め希望に応じて入浴を支援している。同性介助ができない際は、本人の了解を得て行っている。入浴を拒否する入居者には無理強いせず、声かけの工夫をしたり、時間をずらしたり、翌日に変更する等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や本人の睡眠状況に合わせて休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬剤情報から確認し、解らない薬剤があれば法人併設の特養看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗い物や洗濯物を干したり、たたんだりと本人がやりたい事を支援している。		

沖縄県(認知症グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常的にな散歩はもちろんの事、年支初めの初詣や花見、買い物などへ定期的に出掛けている。	個別計画に外出支援を位置付け、職員は入居者と一緒に事業所周辺を散歩する等支援している。入居者の日用品の買い物で近隣のスーパーに出かけたり、入居者に希望を聞きながら季節に応じて浜下り・花見などにも定期的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人希望で買い物が出来るよう、家族へ説明し、少額の金銭を持たせることで了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人希望時に社内電話を使い、家族や友人、知人等に連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・不快や、混乱を招かないように配慮し、居心地の好い空間を提供している。	共用の壁には利用者の日常活動の写真が掲示され、大きな窓からの採光や換気でフロア内の環境を整えている。動線に沿って手すりも設置され入居者が移動し易い工夫がされている。また、入居者の定位置が決まっているので環境を変えないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者同士を相席にしたり、フロア内にはソファを設置し、くつろいで貰えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人やご家族と相談しながら、居室の空間づくりをしている。	居室は和室・洋室となっている。ベッドや箆笥が備え付けとなっており、洗面台は全室に設置され、トイレ設置が4部屋ある。室内は家族の写真や家族が描いた絵画、作品などが壁に掲示され、遠方の家族が宿泊することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にトイレの設置があったり台所が対面式であったり、一般的な家庭の雰囲気に近い構造になっている。職員も見守りしやすく、利用者の自立「出来る」「わかる」が身近に感じられます。		